

学習指導案形式例【R 8 学級活動】 (群馬県教育委員会)

学級活動指導案

議題(題材名)「○○○○○○○○○○」【学指要領:例(),ア】

令和○年○月○日(○) 第○校時 ○○○○教室
○○立○○学校 ○年○組 ○名 指導者 ○○ ○○

1 議題(題材)の構想

1 育成を目指す資質・能力及び児童(生徒)の実態

	資質・能力	児童(生徒)の実態
知識及び技能	<p><文型・文末例></p> <p>知及技「～について理解し、～を身に付けるようにする。」</p> <p>思判表等「～合意形成を図り(意思決定をし)、～することができるようにする。」</p> <p>学び等「～しようとする態度を養う。」</p>	
思考力、判断力、表現力等		
学びに向かう力、人間性等		

2 評価規準

知識・技能	<p><文末例></p> <p>知・能「～理解している。～身に付けている。」</p> <p>思・判・表「～実践している。」</p> <p>主体態「～しようとしている。」</p>
思考・判断・表現	
主体的態度	

3 指導及び評価の計画

過程	日時	主な活動	目指す児童(生徒)の姿(観点)<評価方法>
事前		～。(a)	～しようとしている。(態)<ワークシート>
		～。(b)	※展開参照
本時		～。(c)	～実践している。(思)<観察、振り返りカード>
		～。(c)	
事後			

*活用するコンテンツ等: (a) (b) (c)

4 議題選定(題材設定)の理由

【学指要領】

- 学習指導要領解説特別活動編において取り上げられている学級活動の内容を、記号で記述する。

【児童(生徒)の実態】

- 前議題(題材)までの活動や系統性、生活体験等を踏まえ、**育成を目指す資質・能力との関わり**から、実態を簡潔に記述する。
- 「～ができない。」といった否定的な記述のみは避け、児童生徒の実態を肯定的に捉え、「～については理解している。」のように、プラス面を記述する。

【評価の計画】

- 「事前」(問題の発見・確認)
「本時」(解決方法等の話し合い・決定)
「事後」(実践・振り返り)
- の一連の過程を通して、児童生徒の様子を観察やノートの記事等を参考にしながら機会を捉えて評価する。
- 「事前」「本時」「事後」の過程における目指す児童生徒の姿、観点、評価方法を、評価規準を基に簡潔に記述する。その際、評価場面の重点化を図るようにする。
- 児童生徒のよさや可能性を積極的に見取るために、重点的に評価したり、課題を把握し個別の指導を図ったりし、評価を指導に生かすようにする。
- 評価の表し方や考え方、観点の位置付けについては、「群馬県教育委員会『**指導と評価の一体化の充実に関する資料**』(各課発行・提供資料 義務教育課)」を参考にし、工夫して示す。

【活用するコンテンツ等】

- 参観者が後に参考とできるように、活動で使用するWebのURL情報などを、(英小文字)の後に記述する。
- 例 (a) <http://www.nc.gunma~~~~> 等
- ※(a)などは、指導の計画の中に位置付ける。

【育成を目指す資質・能力】

- 学習指導要領で示された学級活動の内容を基に、**学級活動で育成を目指す資質・能力**を記述する。
- ※各教科等では、目標として示している。

【評価規準】

- 議題(題材)ごと(1時間ごと)に評価規準を設定するのではなく、**各学校で定めた評価の観点に基づき、低・中・高学年、中学校ごとの評価規準**を記述する。

【指導の計画】

- 本議題(題材)を通して、**資質・能力を育成するために必要な活動を明確にし**、学級活動(1)は日時ごとに簡潔に記述する。学級活動(2)(3)は日時ごとではなく、「事前」(問題の発見・確認)「本時」(解決方法等の話し合い・決定)「事後」(実践・振り返り)の過程ごとに簡潔に記述する。
- 「事前」「本時」「事後」の過程の区切りは実線、その中を細分化する場合は点線とする。
- ※別紙として示す場合は、資料として添付し、3のタイトル横に「※別紙参照」と示す。

【議題選定(題材設定)の理由】

- 議題が選定された背景や教師の指導観、目指す児童生徒の姿等を簡潔に記述する。
- ※学級活動(2)(3)は記述しなくてもよい。

